

第3号様式

平成23年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）成果

分類 番号	A	取組 名称	神社・街道を中心とした城陽市域文化遺産の調査と情報化
研究代表者：		文学部（研究科）	職・氏名： 教授・菱田哲郎
研究担当者：			
京都府立大学（東昇、上杉和央、藤本仁文（敬称略）） 外部分担者・協力者（小泉裕司氏ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府城陽市教育委員会文化財係など			
【研究活動の要約】			
城陽市域の神社に所在する石造物などの文化財を悉皆的に調査した。とくに石燈籠や石鳥居、手水鉢などは、地域の記憶とも言うべき銘文が残っており、それらを丁寧に記録することから、地域の歴史を解明する資料とすることができた。また、神社に関する様々な資料を解読し、それをデータ化することにより、地域史の基礎資料としたばかりでなく、絵馬などに込められた人々の思いを復元することが可能になった。そして社叢を含めた神社の景観は、地域をつなぐ街道の中でも重要な要素となっており、古くから人々が親しんだ景観を復元する材料とすることができた。			
【研究活動の成果】			
城陽市内の神社のうち、平井神社、久世神社、水度神社、枇杷庄天満宮、荒見神社、旦棕神社、中天満神社、水主神社について、実地の石造物調査および聞き取り調査を実施した。それぞれの神社において江戸時代に遡る石造物が多く残っており、銘文も解読が可能なものが多かった。とりわけ久世神社では、多数の燈籠が建てられており、同時におこなった官司関係の文書調査から、それらの石造物の建立についての状況が明らかになっている。水度神社では絵馬に対する調査もおこない、「山姥図」などについては、従来の説とは異なる評価、すなわち金太郎の母として子供の成長を祈る願意を明らかにすることができた。 文書資料の情報化も重要な作業として取り組みを進めた。寺田地区に加えて上津屋地区に関わる資料の情報化を積極的に進めたほか、近代初頭の「村誌」や「神社明細帳」など、地域を知るための基礎資料のデータ化を城陽市全域について達成することができた。このような文字情報のデータ化と石造物の調査成果を合わせて、相互に参照することが可能になっている。			
【研究成果の還元】			
（開催した発表会・成果報告会等の開催日、場所、参加者 等を御記入ください） 平成24年度に実施予定 （報告書、論文等のタイトル、希望者への配付/閲覧の有無 等を御記入ください） 平成24年度に刊行予定			
【お問い合わせ先】		文学部（研究科） 考古学研究室	教授・菱田哲郎
Tel: 075-703-5264		E-mail: hishida@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）



神社石造物の調査風景（平井神社）



神社における聞き取り調査（旦棕神社）



水度神社所蔵の大絵馬「山姥図」

いずれも城陽市内における神社調査風景。最後の「山姥図」（江戸後期）は、人をさらう山姥を描いたものとされていたが、調査の結果、金太郎の母である山姥を描いたもので、新たに生まれた子供の成長を祈るものと判明した。